

令和5年度

研修集録

湯沢高等学校

令和5年度 秋田県立湯沢高等学校【研修集録】

目 次

巻頭言	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
研究授業： 国語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
研究授業： 数学科	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
研究授業： 理科	・・・・・・・・・・・・・・・・	14
研究授業： 保健体育科	・・・・・・・・・・・・・・・・	18
研究授業： 英語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	22
研究授業： 芸術科	・・・・・・・・・・・・・・・・	26
中堅教諭等資質向上研修	・・・・・・・・・・・・・・・・	28
教職5年目研修	・・・・・・・・・・・・・・・・	29
センターC講座報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	30

指差すその先に

高橋透

教員が「研究と修養に努めなければならない」存在であることは周知の事実であろうと思います。これに加え、近年はつとに「業務改善(その実質は業務削減であることも周知のこととされます)」の必要性も叫ばれています。教員が「その職責の遂行」に誠実であるが故に、自身の健康を損ないかねないほどの多忙な業務を抱え込んでいる実態にあるからです。研修と修養に努めることを要求する一方で、多忙すぎる現状をなんとかしろというのは、どうにも矛盾していると言わざるを得ず、このようなことを本校の先生方をお願いするのは誠に心苦しいところでもあります。

月を指差すのと似たようなものだ。指に集中するんじゃない、その先の栄光が得られんぞ。

これは、名作「燃えよドラゴン」で、ブルース・リーが、年若い後輩を指導する際に発した言葉です。(この直前のセリフが、かの有名な「考えるな、感じろ」(Don't think, Feel.)」です。)

思うに、研究と修養や、業務改善(削減)は、指先のようなものでありましょう。肝心なのは、その指のはるか先にあるものなのだろうと思います。それが何なのか、様々な考え方がありうるでしょうが、一言でいうなら「幸福」であろうと私は思っています。

先生方は、教員としての職責を誠実に果たすとともに、一個人として、家庭人として、社会の一員として生活していますし、生徒も学校の生徒というだけにとどまらない様々な側面を有する存在であります。それらの総体が「幸福」であることがなにより重要であろうと思います。近年、「ワークライフバランス」だの「ウェルビーイング」などと言われますが、これらは、結局のところ「幸福」の追求という、大昔から言われていることを言い換えただけなのだと思います。

研修を積むことや業務改善に努めることが、指のはるか先にある「栄光」をめざして進むこと、すなわち、先生方と生徒諸君の幸福に繋がって欲しいと願うばかりです。

湯沢高等学校 国語科【古典B（漢文）】学習指導案

日 時 令和5年7月19日（水）
対象クラス 3年E組（27名）
使用教科書 新探求古典B（桐原書店）
授業者 今入 直樹

1 単元名 逸話「江南橘為江北枳」（『説苑』）

2 単元の指導目標

- （1）内容を押さえてよどみなく訓読できる。【読む能力】
- （2）荊王と晏子のやりとりを的確に把握することができる。【知識・理解】
- （3）晏子の思想信条を荊王への対応やたとえ話から考えることができる。【関心・意欲・態度】

3 単元設定の理由

教科書に採られている文章は前漢の劉向によってまとめられた『説苑』による。本文と同じ内容の文章は前述の劉向が再編集した『晏子春秋』にも見られる。権力に媚び諂うことなく、是は是とし非は非とする厳正中立、公平無私な人物であった晏子の言動を伝える『晏子春秋』は日本において既に平安時代に伝来したようであるが、武士階級を中心に読まれるようになったのは江戸時代である。荻生徂徠も『晏子考』を著しており、江戸期の知識人において晏子という人物は注目されていたと思われる。戦後、『晏子春秋』は新釈漢文体系・中国古典文学大系・全訳漢文体系などに収載されることもなくなったが、晏子に関する逸話はこの「江南橘為江北枳」の他、『史記』の「晏子之御」も複数の教科書に載っている。今回は『説苑』版「江南橘為江北枳」を通して漢文訓読に習熟させるとともに、晏子の思想信条に迫りたいと思い設定した。

4 生徒の実態

多くが国公立四年制大学進学を希望する理数科クラスである。学習態度は真面目である。ただ漢文に関しては大学入学共通テストのために必要な分野という意識が強いかもしれない。テキストに対する「主体的・対話的で深い学び」によって入試に対応できる力をつけさせるとともに、生徒が古典の意義や価値を実感し、古典を通して人生を豊かにする態度を育成したい。

5 単元の指導計画

- （1）指導計画 第1時 全文を正確に音読した上で、時代状況も視野に入れて前半部分を読み取る。（本時）
第2時 全体を読み取り、「江南橘為江北枳」の比喩の背後にある晏子の愛民思想について考える。

（2）評価規準

読む能力	知識・理解	関心・意欲・態度
内容を押さえてよどみなく訓読できる。	荊王と晏子のやりとりを的確に把握する。	晏子の人柄・信条を荊王への対応やたとえ話から考える。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

全文音読後、荊王の発言の背景を考えながら前半部分を読み取る。

(2) 授業の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本单元及び本時の目標を確認する。 ・範読に従って音読する。 ・交替で音読する。 ・全体で斉読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な訓読を意識させる。 ・範読において聞き取れなかった箇所がないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よどみなく訓読できている。 <p>【読む能力】</p>
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・「晏子将使荊」を踏まえて晏子が生きた春秋時代の状況を把握する。 ・荊王の発言の背景を考える。 ・荊王の下問に対する側近の案を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再読文字「将」を確認する。 ・地図を用いて春秋時代の状況を把握させる。 ・『晏子春秋』の文章を参考に晏子という人物について考えさせる。 ・『晏子春秋』の文章を参考に荊王の発言の理由を考えさせる。 ・句形（假定形・願望形）を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再読文字「将」の用法を理解している。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晏子の厳正中立、公平無私な人間性を読み取ることができる。 <p>【読む能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斉の宰相である晏子に恥辱を与えようとした荊王の内面を把握できる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句形を踏まえて正確に現代語訳できる。 <p>【知識・理解】</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・後半部分を読み、荊王に対する晏子の発言を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・晏子の発言が晏子のどのような思想信条に基づくものか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全文解釈前に本文の概要を把握できる。 <p>【関心・意欲・態度】</p>

研究授業（古典B）の振り返り

研究授業は令和5年度全県国語教育研究大会におけるものである。

1 研究協議における質疑応答・感想より

・「本時の目標」の提示について

「本時の目標」を提示しなかったことについて質問があった。私自身、「本時の目標」を提示すべきかどうか悩んでいる。「本時の目標」を提示することで生徒の多様な学びや読みの楽しみを限定してしまうのではないかという危惧を持っている。

・「主体的・対話的で深い学び」とは

何をもって「主体的・対話的な深い学び」なのかということについても話し合われた。「主体的・対話的な深い学び」という言葉は、先行した「アクティブ・ラーニング」という言葉から多くの人が連想したように表面的な生徒の活動と理解されがちである。だがそれが「主体的・対話的な学び」なのか。物部指導主事からは「活動の見た目だけに動きがあればいいというアクティブ・ラーニングは終わりを迎えている」というお話があった。

2 古典教育の意義について

今回は『説苑』から春秋時代齊の様々な危機、困難を経て宰相となった晏子の逸話を扱った。かなり前に宮城谷昌光の小説『晏子』を読んで以降、晏子は気になっていた。特に、齊の宰相であった崔杼が自分の妻と密通した君主莊公を暗殺した後、晏子は莊公の不義なる行為を否定しつつも、殺気立った崔杼の兵が取り囲む中、礼に則り、哭礼を行う姿に感動した。

古文・漢文の作品には晏子のように利己主義ではなく「義」「誠」「仁愛」「人情」を行動原理にした人物が数多く登場する。また、思想・倫理・身体操作等について瞳目に値する事柄が限りなく存在する。そこには現在の効率性を重んじるグローバリズムとは異なる原理がある。これからも古典の授業を通じてそうした人物・事柄を伝えていきたい。

3 授業者より

昨年、国語教育に関する多くの著作で知られる野口芳宏氏のセミナーに参加し、改めて国語の授業の存在意義を確認した。氏は授業の存在意義は「学力形成」にあり、国語科の授業の根本的な目的は児童・生徒の「国語学力を形成すること」にあると述べる。そして

「国語学力」とは「日本語」について、

正確に言葉で理解する力

適切に言葉で表現する力

であり、その「国語学力」を育成する基礎技法は、

無駄のない適切な発問

必要なことを必要なときに必要な場所にわかりやすく示した板書

適切な机間巡視

指名の技術

生徒の変容を的確に捉えた評価

であるとする。そしてそのためには「教材研究」が何よりも大切だと述べる。

今後も「教材研究」を大切に、生徒の「国語力」の形成に役立つ授業を行っていきたい。

今回の授業公開のためにいろいろと準備をしてくださった湯沢高校の先生方、秋田県国語部会の先生方、また授業を見に来てくださった先生方、研究協議においてご助言くださった物部指導主事、感想を述べてくださった先生方に感謝申し上げます。

湯沢高等学校 国語科「現代の国語」学習指導案

日 時：令和5年7月19日（水）3校時
 対象生徒：普通・理数科1年A組（31名）
 使用教科書：現代の国語（東京書籍）
 授業者：近藤大祐
 場 所：1年A組教室（教室棟4階）

1 単元名 メディアを考える 『広告の形而上学（岩井克人）』

2 単元の指導目標

- ・言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。〔知識及び技能〕（1）ア
- ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討する。〔思考・判断・表現〕A話すこと・聞くこと（1）ア
- ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。〔思考・判断・表現〕C読むこと（1）ア
- ・我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を身に付ける。

3 生徒の実態

1年A組は、31名（男子15名、女子19名）の普通・理数科のクラスである。発表やグループでの話し合いに積極的に取り組み、知的好奇心に満ちた活発な生徒が多い印象がある。一方で、抽象度の高い文章の読み取りや自分の見解を論理的に組み立てて根拠に基づいて話す力などには、課題を抱えた生徒も見受けられる。本単元では、岩井克人の『広告の形而上学』を読解した上で、筆者の主張について実例を通して検証する活動を行って、「抽象」と「具体」を行き来しつつ理解を深める力を身に付けさせたい。あわせて、自分の身の回りの事象について、批判的に分析し、自身の見解を論理的にまとめる姿勢を育成したい。

4 単元の指導計画

(1) 指導計画

- 第1時 本文の通読と第1段の読解（「貨幣の奇妙さ」について読み取る）
 第2時 第2段、第3段（前半）の読解（「広告の特殊性」について読み取る）
 第3時 第3段（後半）、第4段の読解（広告が持つ「過剰な差異性」について読み取る）
 第4時 第5段の読解とプレゼンテーション用スライドの作成
 第5時 プレゼンテーションと単元のまとめ【本時】

(2) 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解している。〔（1）ア〕 【湯高力 知識・技能】	①目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討している。（A（1）ア）【湯高力 課題対応能力】 ②文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。（C（1）ア） 【湯高力 論理的思考力】	①我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を身に付けている。 【湯高力 公共心】

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

具体的事例をもとにプレゼンテーションを行い、筆者の主張を深く理解することができる

(2) 授業の展開 (本時 5 / 5)

過程	学習活動	指導上の留意点	評価の観点方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの確認をする。 ・本時の学習内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「過剰な差異性」について、本文をもとに振り返る。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の目標 : 事例をもとに、広告の「過剰な差異性」について具体的に説明する 【湯高力 課題対応能力】</p> </div>			
展開① (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が見つけた「過剰な差異」の事例をグループ内でプレゼンテーションし、コメントを述べ合う。 ・各グループの代表が発表を行い、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6人で1グループ ・コメントを述べる際は、次の2点を意識させる 「過剰な」部分が説明できていたか 「差異性」部分が説明できていたか ・話し方、言葉使い、スライドの効果的な見せ方なども自分なりに工夫するよう指導する。 	<p>机間指導 (観察) 思考判断表現①</p> <p>相互評価 思考判断表現①</p>
展開② (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・広告やメディアと接する際に気を付けなくてはいけないことについて各自ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文や本時の発表の内容を踏まえさせる。 ・時間があれば、指名して発表させる。 	<p>ワークシート 主体的に学習に取り組む態度①</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 		

問 教科書50ページ14行目 『過剰な』 差異』 とはどのようなものか。60字以内で説明せよ。

広告上で 自体

商品とは無関係な価値を付与し、他の企業
と対立し、比べたときにも自社の商品の
目立たせるもののことを。

自社の商品の目立たせたり、商品に価値を生
み出したための違いを商品ではなく商品と無
関係のものとして他の社もの比べること。

広告上の

商品とは無関係なサービスや迫力を加えるこ
とで、他の商品と差をつけて価値を高め、自
分の商品を目立たせようとするもの。

韓国でも人気! 話題のサプリが日本上陸

自信をアップしたい 男性の為に作りました!!

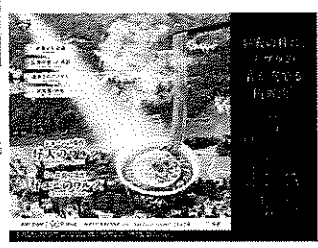
配合成分
L-アロニジン
シソ科ロソニン

UP!
UP!
UP!

!!
あいつ、しばらく見ない間にイケメンに!

＜めんと成長期を もっと元気に!

ゼノビック



カップラーメンの広告



(左)背の伸びるサプリなのに、「見ない間にイケメンに」と書いてある。
(右)成長期も共に身長を伸ばすという意味合いのフレーズが書かれている。
関係の無いことを書いている所が他者との差別化を図ろうとしている、差異である

- ・どん兵衛は天ぷらをメインにしている
- ・カップヌードルは時間を強調している

「甘くない」ビターなレモン!
お酒の広告

「ストロングゼロ」が炭酸が強く飲みごたえを強調しているのに対し、「贅沢搾り」は果汁を多く使用しみずみずしさや、フルーティーさを強調している。どちらも自社が作った物の特徴を強調して差別化を測っている。

水の広告

「天然水」は背景の余白が大きくシンプルで澄んだ印象であるのに対して、「いすはす」はキャッチフレーズやロゴが大きく躍動感があり爽快感の強い印象。背景や商品の構り方など、水の品質とは独立した部分で差別化を図っている。

炭酸飲料水の広告

左のアクエリアスの広告は人の顔や物が飛ばされていることで元気があふれる感じを伝えている。右側のマッチの広告は全体を水色にして文字を白色にする事でシンプルに爽やかさを表現している。左側のアクエリアスの広告はインパクトをつけるために商品に似合わない帽子やめがねなどが飛ばされるように書くことでインパクト、左のマッチの広告には飲み物とは関係ない表情についてのおまけが書かれている。

掃除機の広告

右の広告は美しいメインで目立つようになっていたが、左の写りは全く関係ない。掃除機の「10」の文字を「ぼまろ」に変更し、清潔感を強調するため、壁を掃除している、掃除機をテープにして文字がメインとなっている。掃除機である物に掃除機に関する単語は入らない。インパクトを奪う、差別化を図っている。

掃除機の広告

他のどの掃除機よりも多くのゴミを吸い取ります。2つのクリーナーヘッドを搭載。吸引力が変わりません。

左 タイソンの強力な吸引機能を示しているが「他のどの製品よりも強い」というのは他社の「すべて」の製品と比べたという証明ができないし、第三者からしたら信憑性にもかけるので過剰ではないか

右 強い吸引力だ、というのを示したいのなら右のような広告が正当ではないか

野菜ジュースの広告

右の広告はジュースの美味しさを強調しているのに対し、左上の広告はジュースに含まれている栄養を強調している。しかし、左の広告にプロが「史上一番です。」とコメントしているが今まで何を飲んできたかは広告を見ている側は知らない。

また、右上の広告は明確な栄養素までは書いていないので「1日分の栄養強化剤」というのが分かりにくい。

覗き見防止保護フィルムの広告

「一位」と言ったり、「売上数一部突破!」と書くことによって他の会社の商品よりも優れていることを表している。

覗き見防止保護フィルムの広告

「365日保証」と書くことによって365日以内なら何かあって大丈夫という安心感を持たせ、しっかりと保証があることを表している。

『広告の形而上学』

A組 番・氏名

1、具体的事例をもとに広告の「過剰な差異」について説明しよう。

①消費者 (A)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	「過剰な」の説明が分かりやすかった。視覚的に受け取りやすかった。

②消費者 (B)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	キャストを使った差異の説明が分かりやすく納得した。

③消費者 (C)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	視覚的に分かりやすい広告で、より説明が理解しやすかった。

④消費者 (D)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	動感を用いると分かりやすい。

⑤消費者 (E)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	がんばった。

⑥消費者 (F)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	

2、広告(メディア)に接する際には、どのような意識が必要だろうか。

広告の表現や情報と稿のみにせず、他社とも比較するなどして判断していきたい。どの広告にも過剰な表現が含まれているため信憑性があるか、常に考え向き合うべきだと思ふ。家電や身体に関わる広告などは特に注意して判断していきたい。

3、振り返り(自己評価)

「過剰な差異」について、ポイントを押さえた説明ができた。	A
教科書本文について、理解が深まった。	A
意欲的に活動(話す・聞く・考える)することができた。	A

『広告の形而上学』

A組 番・氏名

1、具体的事例をもとに広告の「過剰な差異」について説明しよう。

①消費者 (A)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	2つを比べて過剰な「差異」を視覚的に説明していたので分かりやすかった。

②消費者 (B)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	2つの広告の差をしっかりと捉え、「差異」を視覚的にわかりやすく発表していたので良かった。

③消費者 (C)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	わかりやすい話し方で「過剰な」「差異」をしっかりと捉えていたのが良かった。

④消費者 (D)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	

⑤消費者 (E)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	

⑥消費者 (F)	「過剰な」の説明	A・B・C
	「差異」の説明	A・B・C
	話し方	A・B・C
	コメント	

2、広告(メディア)に接する際には、どのような意識が必要だろうか。

広告(メディア)は自社の商品の良しや特徴をわかりやすく宣伝しているが、他社との差を比べ、差別に宣伝していることもある。どれが本物の情報かを見分けることがとても大切であると思う。

3、振り返り(自己評価)

「過剰な差異」について、ポイントを押さえた説明ができた。	A
教科書本文について、理解が深まった。	A
意欲的に活動(話す・聞く・考える)することができた。	A

国語科研究授業（『現代の国語』）振り返り

授業者：近藤大祐

1 はじめに

去る7月15日（水）、本校を会場に開催された全県国語教育研究大会において、研究授業を公開した。今大会の研究主題は「次世代を担う生徒の確かな『言葉の力』を育成する授業の実践」という壮大なものであったが、この「次世代」というキーワードは、まさに昨年度から実施されている新教育課程で新設された「現代の国語」という科目の眼目である。今回の研究授業においても、この新科目の特性を鑑み、ICT機器の有効活用、対話的で主体的な学びや、結果として得られる知識よりも学びの過程の重視などを意識することとし、生徒同士のプレゼンテーションをもとに、多様化する「広告の世紀」を批判的に分析する授業を組み立てた。扱った教材（岩井克人『広告の形而上学』）自体は、従来からよく「国語総合」や「現代文B」の教科書に採録されていた所謂定番教材であるが、それを新しい授業観に基づいて、どう料理できるかというのが本授業のテーマである。

2 参観者からの指摘

- ・生徒のプレゼンを見ると、広告同士の比較というよりは、商品同士の比較になってしまっているように見えるものもあり、その点について授業内で何かしら助言が必要だったのではないか。
- ・電子黒板やタブレットを効果的に利用できていた。
- ・「メディアとの付き合い方」という、本教材の中心テーマについての話し合いでは、グループから個へ、個から全体へというように変化のある点がよかった。
- ・「過剰な」や「形而上」など抽象的な概念を十分に説明しきれていないプレゼンが散見された。
- ・プレゼンを伴う授業ではどうしても発表そのものに目が行きがちだが、今回の授業では、あくまで発表の内容を本文の読解に結び付けていたところに、新時代の学びの本質があるように感じた。
- ・ICT機器の活用については、どの先生も試行錯誤の段階だと思うが、大掛かりで凝ったプレゼン資料の作成にこだわらなくても、今回の授業のように一枚もののスライドで手軽に生徒に発表をさせる授業方法もあるということに気付いた。

3 指導助言（秋田高校教育専門監 佐々木茂樹先生）

安定感のある授業であった。プレゼン活動自体は比較的スムーズに行えていたように思う。評価シートの内容もあくまで内容理解にかかわるもので構成されており、評価規準を絞り込んだ点が上手く効いていた。現代の生徒に広告の「過剰な差異」を理解させるのは正直難しいのではないかと感じる。この文章自体が三十年前に書かれたものであり、現代社会とは状況が異なっているからだ。抽象的なものを具体的に説明する際には、何が説明できれば、その「説明」になるのか。を十分に意識させる必要がある。（以上要旨）

4 おわりに

本来の当番校の都合で、急遽本校での研究会開催が決定したのが昨年3月。また本校の80周年記念事業や校舎改築スケジュール等との関係で、例年よりも数カ月開催時期が早まったことなどもあいまって、授業公開を引き受けるにあたって、当初大きな戸惑いを感じた。十分に準備して臨んだ授業とは言えないが、それでも今回の研究授業を通じ自身の授業実践を新鮮な気持ちで見直すとともに、県内の多くの先生方から貴重な助言や示唆をいただくことができたことに、この場を借りて感謝申し上げたい。

第1学年B組 数学科（数学I）学習指導案

実施日時 令和5年6月28日（水）6校時
 実施対象 第1学年B組31名（男子15名，女子16名）
 授業者 小田嶋 芳和
 教科書 高等学校 数学I（数研出版）

1 単元

数学I 第3章 2次関数 （第2節 2次関数の値の変化）

2 本時の目標

グラフが変化する場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができる。

3 単元と生徒

活発な生徒が多く、普段から授業中も積極的に発言する。学び合いや教え合う姿もよく見られ、何事にも意欲的に取り組むクラスである。数学を苦手としている生徒もいるが、互いにサポートしあうことで、授業時間内での理解や習得に努めている。

この単元では、2次関数の最大値と最小値を求める方法を指導する。特に今回は場合分けについて、どこが基準となるのかをしっかりとっておさえ指導していきたい。また、平方完成の式変形に不安を抱えている生徒もみられるので、机間支援をとおして注意して指導していきたい。

4 指導と評価の計画

(1) 指導計画	第2章 2次関数		
	第2節 2次関数の値の変化	9時間	
	2次関数の最大・最小	6時間	(本時 4/6)
	2次関数の決定	3時間	

(2) 評価規準

単元	A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む態度
2次関数の値の変化	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフ及び値の変化について理解し、基礎的な知識を身に付けている。 2次関数の値の変化を考察し、最大値や最小値を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化についてグラフを用いて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の考察を通して2次関数の値の変化に関心を持ち、調べようとする。
本時の評価計画	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフや式を用いて、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。 	
【湯高力】	P 知識・理解	Q 課題対応力 R 論理的思考力 S 対話力	T 協働力 U 自己管理能力 V 前向きにやり遂げる力 W 公共心

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

グラフが変化する場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようになる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<p>○2次関数の式を提示し、グラフについて考察する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> $y = x^2 - 2ax + a^2 + 1 \quad (a \text{ は定数})$ </div> <p>○グラフの移動の様子を確認する。</p>	<p>・平方完成をさせて、頂点と軸を確認する。</p> <p>・grapesを利用して、視覚的にグラフの変化の様子を確認する。</p>	
展開 40分	<p>○本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto;"> グラフが変化する場合の2次関数の最大値・最小値を求めよう。 </div> <p>○【問題1】(教科書p.94の応用例題4)を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> $a \text{ は定数とする。次の関数の最小値を求めよ。}$ $y = x^2 - 2ax + a^2 + 1 \quad (0 \leq x \leq 2)$ </div> <p>○グループで出た考えを発表する。</p> <p>○【問題2】を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> $a \text{ は定数とする。次の関数の最大値を求めよ。}$ $y = x^2 - 2ax + a^2 + 1 \quad (0 \leq x \leq 2)$ </div> <p>○グループで出た考えを発表する。</p>	<p>・グループになり、ラミネートの教具を活用して、軸の方程式と定義域の位置関係を探らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>《発問》 xの値がいくらのとき、最小になるでしょうか。</p> </div> <p>・軸の方程式と定義域の位置関係によって、最小値の場所が様々あることに気付かせる。</p> <p>・場合分けの視点を待たせる。</p> <p>・グループになり、ラミネートの教具を活用して、軸の方程式と定義域の位置関係を探らせる。</p> <p>・【問題1】との場合分けの違いについて確認する。</p>	<p>B (プリント, 観察) 【Q,R,S】</p> <p>A (プリント) 【P】</p> <p>B (プリント, 観察) 【Q,R,S】</p> <p>A (プリント) 【P】</p>
整理 5分	<p>○本時のまとめをする。</p>	<p>・解法の手順をまとめる。</p> <p>・場合分けの基準についてまとめる。</p> <p>・自己評価をするよう指示する。</p>	

研究授業（数学Ⅰ）の振り返り

令和5年6月26日(水) 小田嶋 芳和

1 授業者から

今回の授業では、グラフが移動し範囲が固定されてある場合の2次関数の最大値・最小値を求める問題を取り扱った。例年この分野を苦手とする生徒は多く、指導法については日々研究を重ねてきた。最近「範囲移動・グラフ固定パターン」と「範囲固定・グラフ移動パターン」に分けて指導している。grapesを利用して範囲とグラフの変化の様子をパソコンで提示し、生徒に大体のイメージをつかませ、更に生徒が自力で解けるように解法をできるだけシンプルにシステムチックに教示することを心掛けている。今回の授業では更にラミネートの教具を活用して、生徒ひとり一人が範囲とグラフの変化の様子を調べながら最大値・最小値の切り替わるポイントに気づけるよう工夫した。生徒も活発に活動してくれたことで議論も深まり、生徒間での学び合いの姿勢も見られ、授業に対する理解が深まったのではないかと感じている。今後、定期考査や模試の結果を見ながら、この分野の内容が定着していけるように努めていきたい。

2 参観者から

- ・方針、意図をしっかり持って授業を実践している。
- ・前時との比較から、固定するもの、動かすものを明確にしていたので、生徒が何をするのか見通しの立つ授業であった。
- ・問題に取り組む前に grapes でグラフを動かして見せることで、全員がスムーズに考察できていた。さらに、ラミネートの教具を実際に生徒が動かしながら「実験→確認」して調べる作業がとても良いと思った。
- ・グループ学習で、相談したり、分からないことを共有したりしていて良かった。
- ・5班の発表内容が良かったので、表現の仕方を全体で共有して、「ここ」や「そこ」といった言葉を使わないように指示があれば良かった。
- ・発表で「範囲」を主語にする傾向があり興味深かった。
- ・「課題提示→個で考える→グループで考える→発表→全体でまとめる」という型ができていた。
- ・5つの区分で最小値と最大値の解法を併記して見たかった。
- ・「図は全部で5つ」や「動かすものは左から」、「5つの図の中でグループ分けする」など、最大値・最小値を求める手順を決めていて考えやすいと思った。
- ・最後に手順を示していたが、思考の方略を明確にする意味で良いと思った。
- ・難しい内容を生徒が実感をもって理解しているように見えた。余裕な生徒も見受けられたので、個別最適な学びの追究にも取り組んでもらいたい。

理科(生物基礎) 学習指導案

授業日 令和6年1月26日 金曜日 3校時
 指導者 大隅 哲也
 対象生徒 1年C組
 教科書 高等学校 生物基礎 啓林館

1. 単元名 第3部 第4章 第1節 免疫の働き D免疫と病気

2. 単元目標 (1) 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身につける。
 [知識及び技能] (2)ア
 (2) ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、免疫などの特徴を見だし表現できる。
 [思考力、判断力、表現力等] (2)イ
 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
 [学びに向かう力、人間性等] 目標(3)

3. 生徒と単元 本校は地域の進学校であり、地域住民からの進学に向けた期待も高い。また、探究活動にて論証力の向上を重視しており、論理的思考力は身につけ始めている。一方で、他者と協働し取り組む力や発言する積極性などは、いま一歩不足しているように思う。対象生徒は高校1年生ということもあり、社会的な知識や生活体験が乏しい一面もみられる。そこで、科学的な知識と生活との結びつきを意識しながら、他者と意見交流する学習活動から基本的な知識の定着と協働力や積極性を養っていききたい。

4. 単元指導計画および評価の計画 第3部 第4章 免疫 (全5時間)

	主な活動	評価方法			評価規準
		◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価			
		【A】 知識 技能	【B】 思考 判断 表現	【C】 主体的に学 習に取り組 む態度	
1	A 生体防御 ○生体防御と免疫に関わる細胞の種類を理解する。	◎配信 課題			生体防御と免疫に関わる細胞の種類を理解できる。
2	B 自然免疫 ○自然免疫が働くしくみを、病原体が侵入したとき、炎症が起こったとき、感染細胞が出現したときに分けて具体的な細胞名を出して説明できる		◎レポ ート	○振り返り シート	自然免疫のしくみについて、具体的な細胞名を示し、反応の流れに沿って論理的に説明できる
3 4	C 獲得免疫 ○細胞性免疫と体液性免疫の共通点と相違点をまとめて理解する		◎レポ ート		獲得免疫について、細胞性免疫と体液性免疫の共通点と相違点を挙げて、具体的な細胞名を示しながら、反応の流れを説明できる
5 本 時	D 免疫と病気 ○さまざまな病気にどのような免疫のしくみが関与しているか分類できる	◎配信 課題		○振り返り シート	さまざまな病気にかかわる免疫機構を理解できる

6. 本時の目標 さまざまな病気にどのような免疫のしくみが関与しているか分類できる。

7. 本時の学習展開

	学習内容・学習活動	指導内容・指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな病気を紹介し、病気と免疫との関係を考えさせる。 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">本時の目標： さまざまな病気にどのような免疫のしくみが関与しているか分類できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料集、chromebook などさまざまな手法で情報を得るように指示する 	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで分担して病気の症状と、どんな免疫機能が関与しているかドキュメントにまとめる。 ・グループでジャムボードを用いて、病の名称と免疫機能を1つの付箋に書く。 ・免疫の機能ごとに分類分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ、グループで使用するドキュメント、ジャムボードを配信しておく。 ・付箋の書き方の例を出して指示する ・各班でまとめたものを電子黒板に示して共有する 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・配信課題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間までに繰り返し実施するように指示する 	<p>満点を取るまで配信課題に取り組んでいる。 (A、演習)</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに目標を達成した(できなかった)理由を記入するように指示する。 ・理解できなかった部分がある場合は記載するように指示する。 	<p>振り返りシートに理由を入力している。(C、記述)</p>

理科授業研究会

参加者 鎌田清篤 佐藤栄幸 仲山抄子 佐藤隆
授業者 大隅哲也

1. 授業者より

研修部では「授業等におけるICT機器の効果的な活用を推進する。」という目標が設定されており、授業においてICTを効果的に活用することで、より主体的・対話的で深い学びが実現できると考えられる。今回の授業では、生物基礎における免疫の単元の最後の授業で、病気と免疫の関係を結びつけて理解させ、「知識・技能」について評価することとした。本単元は一方的に教師からの説明になりがちな単元であったため、できるだけ生徒を主体的に動かし、協働的な学びから知識の定着を図る目的でICTの活用を中心に行うことにした。あらかじめ、免疫の単元の指導と評価の計画、評価のルーブリックを明示し、ICTを使ったグループ活動で効果的に知識を定着させ、配信課題の取り組む状況から「知識・技能」の評価をしようと考えた。

授業の導入段階でやることを示し、できる限り作業に時間を使えるように配慮した。展開段階の作業時間は多く取ることができたが、ICTの使い方に苦戦している生徒や、免疫と病気の関係というテーマに対して、免疫機能を中心として考えてほしかったが、どうしても病気の症状や原因に注目してしまい、教師側が考えている方に誘導することが難しかった。病気と免疫機能を分類させる段階においては、あらかじめ免疫機能をしぼって選択させる方法もあったのだが、選択肢を与えないことで自由度をもたせ、主体的に学びに向かうことを期待して実施した。結果は、予想した以上に進むことができず、評価をするための配信課題を各自で課題としてやるという結果になってしまった。

今回の研修では、ICTをメインに使って授業をすることで、静的になりがちな授業が動的なものになり、主体性や協働性を育むことにはつながった。しかしながら、個人のデジタル技術の差異や教師側が伝えたいことをICT上で表現することの難しさをうまく考慮することができず、計画を評価まで実施できないという見通しが甘い結果となってしまった。今後は、しっかりと授業内容の精選をし、適度な分量で展開していきたい。

2. 参観者より

授業研究会では、ICTを活用した授業の「良かった点」と「工夫が必要な点」について参観者より以下のような指摘が寄せられた。なお、同じような内容と思われる記述については割愛した。

〈良かった点〉

- ・グループで活動しているが、生徒全員がすべての人の資料を見ることができるので、クラス全員で授業をしているように感じることもできた。
- ・授業全編でICTを活用することで、主体的・対話的で深い学びにつながっており、

ICTの可能性を感じる事が出来た。

- ・授業の流れやドキュメントに入力する内容など、次にやる活動の指示が明確で、全員が最後まで思考している様子が見られた。
- ・個人でまとめ→グループで共有→クラスで発表といった、授業全体の流れがスムーズであった。
- ・作成した作品が意図していない方向に向かっていったが、途中で修正することができた。手書きでは修正するのに時間、労力を要するものが、ICTではすぐさまできることも良さである。

〈工夫が必要な点〉

- ・授業の見通しが甘い。どの程度の分量であれば、まとめまで行くことができたのか再考してみしてほしい。
- ・病気と免疫を分類する部分でどの観点で分類するのかが、不明瞭になっていた。ある程度項目があった上で分類するほうがわかりやすい。しかし、項目があると生徒の自由度を制限することになるので、そのさじ加減が難しい。

保健体育科「体育」学習指導案

日 時：令和5年9月28日(木)3校時
場 所：本校グラウンド
対 象：第1学年AB組
授業者：星野 日和 (TT高橋 英里)

1 単元名 C陸上競技 短距離走・リレー

- 2 単元の目標
- (1) 短距離走・リレーにおいて、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができるようにする。 (知識及び技能)
 - (2) 短距離走・リレーの動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
 - (3) 短距離走・リレーに自主的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元は「走る」、「跳ぶ」及び「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる単元である。

また本単元で扱う短距離走・リレーでは、合理的なフォームを身に付けたり、バトンの受渡して次走者のスピードを十分高めたりして、個人やチームのタイムを短縮したり、競走したりする楽しさや喜びを味わうことができる。

本時のリレーでは、3時間のまとまりで「次走者はスタートを切った後スムーズに加速して、スピードを十分に高めること」という技能の習得を目指す授業の3時間目である。

(2) 生徒観

生徒は男女問わず仲が良く、全体で活発な雰囲気がある。保健体育科に関する知識や技能については十分に身に付いている生徒もそうでない生徒もいるが、興味・関心をもって取り組む生徒が多く、授業中は積極的な発言や行動、態度が見られ、話し合い活動も活発に行うことができる。

(3) 指導観

近年の本県現状として「走力の低下」が挙げられる。そこで中学校との接続を踏まえ、体育の見方・考え方を働かせ、走ることが楽しいと感じられる授業を展開し、生涯にわたり心身の健康を保持増進する資質・能力を育成することを目指したいと考える。本単元ではその「走る」運動などで構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのでき、直接的に本県の課題につながると考えた。手立てとして、前年の第38回秋田県学校体育研究大会湯沢雄勝大会での研究成果を生かし、指導と評価の計画のもと、授業を進める。特に指導と評価の計画では、指導と評価のバランスを重視しながら作成し授業を行っていくことを目指す。本時は、「走る」だけではなく、リレーという教材を通して、チームでタイムを短縮し、目標をクリアする達成感や充実感を味わわせたい。

4 単元の評価規準

別紙参照

5 単元の指導と評価の計画

別紙参照

6 本時の計画 (10/12)

(1) 本時のねらい：リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加速して、スピードを十分に高めることができるようにする。 (知識及び技能)

(2) 展開

時間	学習内容・学習活動等	指導上の留意点	評価【観点】(方法)
導入 (10分)	1 挨拶をし、健康観察を行う。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> スピードを高めてバトンを受け渡そう 知識及び技能 </div> 3 ウォームアップを行う。 ・ジョグ (グラウンド1周) ・準備体操 ・動的ストレッチ	・怪我をしないようにしっかり体を動かし、じんわり汗をかくように促す。 ・準備体操と動的ストレッチでは下半身を重点的することでその後の活動にもつながるようにする。	
展開 (35分)	4 バトンパスドリルを行う。 (前々時で説明済み) ・グラウンド1周 ・チームで隊列を組み、バトンを回す。 ・5割程度のスピードで走り、慣れてきたらスピードを上げる。 5 ゴーマークバトンパスを行う。(前時で説明済み) ・次走者はマークを目印にスタートを切る。 ・マークのタイミングを走者間で確認する。 6 各チームで練習をする。 ・上記の練習またはチームで考えた練習をする。 7 男女別リレーを行う。 (男子 → 女子) ・1チーム10人程度 ・グラウンド半周で交代する。 ・走順はチームで決める。	・教師(TT)と陸上競技部でデモンストレーションを実施し、前回の授業の課題を生徒がイメージしやすいようにする。 ・前時、前々時と練習していることを踏まえ、チームの状況を見ながら、走るスピード上げるように促す。 ・陸上競技部でデモンストレーションを実施し、前回の授業の課題を生徒がイメージしやすいようにする。 ・各チームにバトンパスの練習ができるように場所とバトン、マークを準備する。 ・練習が円滑に進むように声掛けをする。 ・話合いの時間が長引くことがないように体を動かすように促す。 ・順位よりも前時よりもタイムが上がることを目指すように声掛けをする。 ・評価をつけられるように、動画撮影をする。	【技能】リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加速して、スピードを十分に高めることができる。(観察・動画)
まとめ (5分)	8 各自で整理運動を行う。 9 本時のまとめをする。	・強度の高い運動をしたことを伝え、しっかり整理運動をするように促す。 ・本時のねらいに沿った振り返りになるよう助言する。	

湯沢高校 第1学年「陸上競技(短距離走・リレー)」「指導と評価の計画」

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
学習の段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
学習の段階	1 目標や学習の進め方を理解し、学習の見過しをちつ	2 スタートダッシュで地面を力強くキックして、徐々に上体を起こしていき加速する。	3 スタートダッシュから力強く加速する	4 徐々に上体を起こしていき加速する。	5 後半でスピードが著しく低下しないよう、カミのないリレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	6 スムーズな動きで走る。	7 カミのないリレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	8 リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	9 リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	10 リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	11 リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	12 リレーでは、次走者はスタートを切った後スムーズに加えて、スピードを十分に高める。	
学習内容と流れ	○単元の目標(目指す姿)や学習内容、学習の進め方を理解する。 ○陸上競技(短距離走・リレー)の特性を認識する。 ○安全上の留意点について確認する。 ○レインスタックをする。 ○振り返りとまとめの仕方を理解する。	○クラウチングスタートから力強く加速する ・朝刈込みダッシュ ・引っ張りスタート ・スリーポイントスタート	○力強く加速する ・片足踏み ・膝曲げ ・かかと引きつけ	○クラウチングスタートから力強く加速する ・朝刈込みダッシュ ・引っ張りスタート ・スリーポイントスタート	○スムーズにリズムカルに走る ・片足踏み ・膝曲げ ・かかと引きつけ	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認	○スピードを高めてバトンを受け渡す(オーバーハンドパス) ・バトンパスドリル(チーム) ・コマークバトンパス確認 ・チーム確認
評価機会(方法)	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	
単元の評価	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	
評価規程	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	
評価規程	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	
評価規程	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	知識 技能 思考・判断・表現 態度	

生徒の振り返りの抜粋（Googleフォームより）

①知識・技能について頑張ったことや工夫したこと、自分の変化などを書きましょう。

- ・チームでバトンパスのやり方を試行錯誤して練習することができたので、最初のころに比べて確実にきれいにバトンを繋げられるようになった。
- ・自分にバトンを渡す相手の速度を落とさないようにリードの距離を少し長めにしたこと。
- ・バトンをもらう場所もチームで話し合いながら工夫することができました。
- ・相手がより速くスピードにのれるように、バトンを渡す位置を事前に話し合ったり、渡す際に「ハイ！」と声を出したりしたことを頑張りました。
- ・上手くバトンパスが出来るようバトンパスが上手いチームのパスを参考にした。

②思考・判断・表現について話し合ったことや練習したことなどを書きましょう。

- ・走り出しや声かけ、手を出すときのタイミングを話し合って改善していった。
- ・どの走順だったらタイムが縮まるのかチームで話し合うことができた。
- ・速い人と遅い人でテイクオーバーゾーンの立つ場所を変えること
- ・軽く走りながらバトンパスの練習をしたり、前のリレーを踏まえて走順を変えたりした。
- ・一列に並んでバトンパスを練習した。動画で見たように「はい」と言われたら前を見たま受け取る練習をした。難しかったがタイムを縮めることができたのでよかった。

③主体的に取り組む態度について、健康安全に配慮したことなどを書きましょう。

- ・リレーが終わったあと、足が痛くなるのでストレッチをした。
- ・始めの授業でリレーを行ったときに体調を崩してしまったので、次の日に体育がある日はいつもより早めに睡眠を取るようにした。
- ・こまめに水を飲んだこと。バトンを渡し終わったらすぐにレーンの外に退いて後ろから走ってくる人の邪魔になったりぶつかったりしないようにした。最後で体力が切れて減速してしまわないように根性で最後まで全力で走った。

④その他

- ・陸上競技の経験はあったものの、高校に入ってから走るものが減ったので普段から運動に取り組んでいきたい。
- ・最初はバトンパスもタイムもあまりよくなかったけど同じチーム同士で話し合いをしてだんだんとバトンパスがスムーズになったしタイムも縮まったのでよかった。
- ・リレーの授業を通して、チームワークの大切さを学ぶことができた。

英語コミュニケーションⅠ学習指導案

実施日時：令和5年11月10日（金）3校時

場 所：図書室

対 象：1年E組（29名）

授 業 者：菅原 透

A L T：ノクソーロ・ングーセ

教 科 書：BIG DIPPER English Communication I

（数研出版）

1 単元名 Lesson 6 What is Happiness?

2 単元の目標

日本と世界の幸福度について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに聞き手に分かりやすく話して伝えることができる。

3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標

身近な話題について、説明したり意見交換したりすることができる。【1年 SPEAKING（やり取り）】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現等を理解している。 ・日本と世界の幸福度についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日本と世界の幸福度についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日本と世界の幸福度についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。

5 単元観

本単元は、日本と世界の幸福度に関する説明文を聞いたり読んだりすることで、文化や価値観の違いによって幸福の感じ方や捉え方が異なることについて理解を深めていく内容となっている。扱われている言語材料は過去完了、関係副詞（where, when）であり、関連する領域別項目は「SPEAKING（やり取り）」とする。ペアやグループで伝え合う活動を通して、新たな情報やものの考え方を得たり、整理したりすることで、多面的・多角的に考える機会とする。

6 生徒観

週3時間のうち1時間をディベートの基礎を醸成することに割り当て、身近な論題をテーマに英語で話し合うことを通じ、理由や例を含めて自分の意見を話すことに少しずつ慣れてきた生徒が増えてきた。その一方で、相手の意見に適切に反駁することの難しさを感じている生徒も多く見られる。本単元では、ディベートに向けた支援等を通して、自分の意見を述べるとともに相手の意見に適切に反駁する力を育成していきたい。

7 単元の指導と評価の計画（総時数：6時間）

主な言語活動等（◎本時の内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・説明文を読む前に、これまでで一番幸せに感じたことをペアやグループで共有する。 ・説明文と図表を適切に読み取り、幸福度の違いの理由について意見を書く。 <p>◎身近なテーマを基に幸福について考え、理由や例を含めて自分の意見を相手に伝えるとともに、立場の異なる意見に適切に反駁する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・エッセイライティング ・Google Form

8 本時の学習（本時6／6）

(1) 目標

身近なテーマを基に幸福について考え、意見のやり取りや反駁を通じ多角的に物事を捉えることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 5分	<p>○Warm up</p> <p>ALTとJTEによる論題に関連した small talk を聞いた後、どのような内容であったか、ペアで話し合う。</p> <p>ペアで話した内容を発表する。</p>	<p>○発話の語彙レベルやスピードに留意する。</p> <p>○2ペアを指名する。</p>
展開 38分	<p>○本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="185 707 1430 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>To express your ideas about the topic, "Living in the countryside makes various people happier than living in big cities."</p> </div> <p>○賛成・反対に分かれ、ペアで理由を考え、Google Jamboard に2つ理由をまとめる。その際に idea sheet で6つの視点を確認する。</p> <p>○前後のペアで意見を伝え合う。</p> <p>○相手ペアの意見を紹介する。</p> <p>○黒板に書かれた反対側の意見の理由の中から2つ選び、ペアで反駁を考え、Google Jamboard にまとめる。</p> <p>○反駁を発表する。</p>	<p>○文ではなくキーワードでまとめるよう指示する。</p> <p>○内容や表現について、個別に支援する。</p> <p>[6つの視点]</p> <p>① 誰の視点か ② 経済・お金 ③ 安全 ④ 環境 ⑤ 便利さ ⑥ 健康・福祉</p> <p>○内容や表現について、個別に支援したり、全体で共有するためにフィードバックしたりする。</p> <p>○4グループを指名する。相手ペアの意見や理由についてキーワードややり取りを通して理解しているか確認する。</p> <p>○発表された理由を黒板にまとめ、それらに反駁するよう指示する。また、キーワードか文でまとめるよう指示する。</p> <p>○6ペアを指名する。発表の際は Jamboard をなるべく見ないように指示する。</p> <div data-bbox="847 1518 1487 1783" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[評価]</p> <p>身近なテーマを基に幸福について考え、意見のやり取りや反駁を通じ、多角的に物事を捉えることができる。</p> <p style="text-align: right;">(活動の観察)</p> <p>【思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度】</p> </div>
まとめ 7分	<p>○この活動を通して、気付いたことや自分の考えがどのように変化したのか、さらに、表現の面で苦労したことなどを Google Form に回答する。</p>	<p>○生徒の回答を全体で共有し、生徒の考えや意見にどのような変容が見られたのか、また表現などについてフィードバックする。</p>

公開研究授業（英語コミュニケーションⅠ）の振り返り

令和5年11月10日(金) 菅原 透

1 授業者から

本校はAKITAグローバル人材育成事業 令和5年度「発信力強化研究開発プロジェクト」の拠点校の指定を受け、生徒の英語による発信力の強化に向けた具体的な取組、特にディベート的要素を取り入れた言語活動の充実を目指し、英語科職員一丸となって授業改善に取り組んでいる。今回の研究授業では Lesson 6 の単元内容を踏まえ、「身近なテーマを基に幸福について考え、意見のやり取りや反駁を通じ、多角的に物事を捉えることができる」という目標を設定し、授業を行った。ディベート活動は1学期から週1回、ALT とのチームティーチングで行っており、生徒は賛成・反対の意見を理由や説明を付け加えて述べることは概ねできるようになってきた。その一方で、相手の意見を正しく理解できないことによる議論の行き詰まりや食い違いなどがしばしば見られ、改善すべき課題であると感じている。そのため、本時では相手ペアの意見を発表する活動を通して、相手の意見を正しく理解することに一つの焦点を当てた。また、反駁もこれまで練習してきているが、的確な反駁ができずに苦戦している生徒も多い。今回は「幸福」という抽象的なトピックでもあったため、予め6つの視点（考えるポイント）を提示し、より多角的な物事の捉え方ができるよう生徒を促すとともに、それらの視点を生かしたより具体的な説明や例を述べることによって、相手側の反駁のポイントがより明確になるよう配慮した。生徒たちはしっかり指示を聞いて、活動に参加する姿が見られた。私やノクソーロ先生が想定していたよりも、興味深い意見や視野の広さが感じられる意見があり、生徒の発想力の豊かさが感じられる場面があった。正しく自分の意見を伝えるには、適切な語彙選択や文法力が必要であるので、日頃の授業やディベート活動、さらに振り返りを充実させることによって、それらの力を高めていきたい。

2 参観者から

- ・生徒たちが積極的に自分の意見を英語で伝えていた。
- ・JTE と ALT の役割分担に偏りがなく、生徒への指示も明確であった。
- ・予め6つの視点を与えていたのは良かったと思われる。それによって、生徒の想像力に制限がかかることはないと思う。
- ・Google Jamboard や Forms など、クロムブックを必要な場面に応じて活用している。キーワードでまとめたものやアンケート結果を共有・視覚化できるメリットは大きい。
- ・トピックに関して、happiness というのは抽象的であり、人によって感じ方や考え方が違うものであるため、もっとより限定的で具体的なトピックにすべきだったのではないか。

- ・キーワードでメモをしたり、まとめたりするほうが、スピーキング主体の活動においては有効と思われる。英語が苦手な生徒への配慮であったかもしれないが、文でまとめるなどのライティング活動はまた別の授業で扱ってもよいのではないか。
- ・地元の湯沢に関するデータの活用や地域の課題なども踏まえながら授業を展開することにより、より身近なものとしてトピックについて考えることができ、内容も深まっていくのではないか。

芸術科「美術 I」学習指導案

日 時:令和6年1月30日

対 象:1年A組17名 場 所:美術室

指導者:今野秀幸

教科書:美術1(光村図書)

■単元名 「グーグルスライドで物語を作ろう」

■単元の目標

与えられた12枚のスライドを基に、時間の流れという概念をふまえ構成力を養う。

演出を考え作品をプレゼンテーションすることができる。

解答のない課題に対して「自分だったらこうしたい」という、経験や教養をアウトプットする力を養う。

■生徒について

男子8名、女子9名のクラスである。美術の課題とは基本的に解答がない。

その中でも、自分なりに解答を見つけようとする問題解決意識が強いクラスである。

■選定の理由

美術の学習指導要領には「映像メディア表現」という項目がある。

「映像メディア表現」には、絵画や彫刻にはない時間という概念が表現に組み込まれているから。

■単元の指導計画(総時数3時間)

①時間目・・・オリエンテーション 過去のサンプルを提示する。 制作①

②時間目・・・グーグルスライドの解説 制作②

③時間目・・・プレゼンテーション(本時)

■単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な取り組み
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 今まで培った教科の知識や経験という要素を素材として、作品の制作に生かす。 グーグルスライドを活用するという技能を評価する。アニメーションの活用など。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた12枚のスライドから起承転結などを思考・判断し、構成力を養う。 プレゼンテーションでは、声量、スライドの進行などを考慮し表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 解答のない課題に対して、自分だったらこうしたいという主体性を養う。 クロームブックの操作に対しては、主体的に取り組むという素地が育まれている。

公開研究授業（美術 I）の振り返り

令和6年2月13日(火) 今野 秀幸

■授業者から

【知識・技能】について

知識は美術に限定されたものではなく、他教科からの知識を作品に反映させるように指導した。また、生徒自身が部活動や実生活で経験した内容も踏まえて制作につなげるようにアドバイスをした。技能に関しては、クロームブックの操作が評価の対象となる。生徒たちはグーグルスライドを見事に操作し、完成度の高い作品を仕上げていた。

【思考・判断・表現】について

生徒はスライドを思考・判断のもと構成し、創意工夫して制作進行していった。ここから作品をプレゼンテーションするという「表現」にまで発展させていくことができた。

【主体的な取り組み】について

タブレットを活用するというだけで美術作品を制作するという主体性は向上するような感じがする。しかし、生徒はタブレットの画面から得られる素材に頼りすぎてしまい、創造性は低下してしまった。

■参観者から

I C Tを活用した授業実践という内容で、とても参考になりました。

生徒全員が共通のスライドを基に、発想力により文言とアニメーションを加えて物語を制作するという内容で興味深かった。

生徒たちの発想の素晴らしさに感動し、1時間があっという間に感じました。

普段の指導があるから、このようなプレゼンテーションにつながるのだと感じました。

中堅教諭等資質向上研修講座の報告

2 年部 柴田 和明

1 研修の目標

目標 中堅教諭としての自覚や学校運営参画意識を高め、個々の能力、適性等に応じて、ミドルリーダーに必要とされる資質の向上を図る。

2 感想など

私が、今回の中堅教諭等資質向上研修で一番印象に残っているのは、6月27日のI期の開校式での秋田県総合教育センター所長阿部聡先生からのお言葉です。これから中堅教諭等資質向上研修が始まる時の開校式でのお言葉であったが、秋田県の教員に採用されてから10年が経ち、日々の忙しさにじつくりと自分の立ち位置について考える時間が持てていなかっただけにすごく印象に残っています。中堅教諭等資質向上研修が目指すもの、秋田県教職キャリア指標などのお言葉から始まり、心にとめておきたいことなど色々あったが、その中で井上ひさしの「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことをおもしろく、おもしろいことを真面目に、真面目なことを愉快地、愉快的ことはあくまで愉快地に」がものすごく印象に残っています。教科指導でも、クラス経営でも、部活動指導でも生徒に何かを伝えるということはやはりとても大変で、その事柄の大切さも含めて伝えるときにこの言葉のようにおもしろく愉快地に伝えられたらということを感じていたので、この言葉はずっと大切に胸に留めておこうと思いました。

また、学校の危機管理についても今一度意識することができて印象に残っています。自分にも3人の子供がおり親としては、いってきますと家を出た子どもがただいまと元気に帰ってきてくれることが何より大切なことだと思っています。それは自分の学校の生徒にも同じことがいえると思っています。講座の中で言われたことに、「危機はどこにでもあり、絶対になくならない」ということでした。この言葉を大切に、慢心せずに危機管理に取り組み、生徒が安心・安全な学校生活を送れるように心新たに組みんでいきたいと思っています。

今回の中堅研修を通して今後特に取り組みたいことは、「教科等指導力」です。本校は国公立大学への進学希望者が1年生終了段階で8割を超えているので、大学進学へ向けた教科等の指導力は非常に重要であると感じています。各大学の総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の過去の出題傾向はもちろん、大学入学共通テストにおいても新課程では教科数も増え、試験時間が増える教科もあります。ますます生徒の負担は増えていると感じます。その中で、教科における指導力においては、教科書や副教材の選定、3年間を見通した教科指導計画なども非常に重要であると感じています。また、総合型選抜や学校推薦型での募集も増えている現状を考えると、秋田の探求型授業での実践も進路指導においてはとても重要な役割を担っていると感じています。これらを下支えするのが、授業研究や授業改善を個々の教員で進めていくだけでなく、学校全体や教科で組織的に取り組むことだと思います。今年度、数学科の主任として色々な仕事に携わり、なかなか教科としての取り組みというところまで推進することができなかつたと感じています。分掌主任や学年主任、担任、部活動顧問などそれぞれの先生方が年間通して校内外での活動が多いことが要因の一つではないかと考えます。このことを通して、教科での授業改善を十分行うためには、校内における業務改善も無視できない問題なのだと感じました。これは、マネジメント能力の話になりますが、教科の指導力の向上に取り組みながら学校経営への参画もできる範囲で組みんでいきたいと感じています。教科や学年、分掌の先生方と連携を取りながら、次年度に向けて今年度の振り返りをし、湯沢高校での生徒の進路実現に向けて尽力していきたいと考えています。

教職5年目研修講座（養護教諭） 参加報告

養護教諭

大高 彩都子

1 研修の目標と内容

- ① 目標 学校組織マネジメントの意識を高め、保健教育や保健管理、健康相談等についての実践的指導力の向上を図る。
- ②内容 講義・演習：教師が使えるカウンセリングの技法
講義・演習：発達障害のある児童生徒の理解と支援
講義；演習：学校組織の一員として 「マネジメントの視点」
- ③研修日時 令和5年10月13日（金）

2 感想など

養護教諭5年目として、実務で活用できるスキルアップのための研修であった。

講義の中で、カウンセリングを行う上では、普段の行動・言動・立ち振る舞いなどから相談したいと思ってもらえる人であることが重要であると学んだ。自身の現状を振り返りながら、養護教諭のあるべき姿や目指す姿を再確認した。教師が聞きたいことと子どもが伝えたいことは必ずしも同じであるとは限らない。子どもが伝えたいことを聞き出すことが、養護教諭に求められる。そのために各種のカウンセリング技法（ノンハーバル、コーピングクエッション、勇気づけなど）の活用法を演習を通じて学んだ。

また、発達障害のある児童生徒の理解と支援の講義では、ロールプレイを通じて発達障害を抱える児童生徒がどのような困り感を抱えているのか、どのような支援を求めているのかを実際に体験し学ぶことができた。周囲との差に困り感を持って、やる気が低下してしまう児童生徒が増える中、児童生徒への適切な支援とともに担任に対する支援も必要不可欠である。また、障害の有無にかかわらず助けを求められる場所があることが重要であるため、養護教諭として視野を広げて早期に支援を行える環境・体制作りを行っていきたい。

最後に、学校組織の一員として、学校全体の目標や取り組みを知ることで養護教諭としての方向性、今やるべき課題が見えてくる。学校の特徴や良さを改めて確認して、ないものねだりするのではなくあるものをどう活かすのかを学ぶことができた。今後も養護教諭として専門的な視野を持ちつつ、教育活動に積極的に関わって行きたい。

養護教諭に求められる役割は地域や校種、学校の実態によって様々であるが、ニーズに応じて臨機応変に対応していくことが求められる。多様化する健康課題や困り感を抱える児童生徒への対応に、今回学んだカウンセリングの技法等を活かしていきたい。

センターC 講座「高等学校におけるプログラミング演習」 参加報告

2年部
大隅 哲也

1 研修の目標と内容

- ①目標 高等学校におけるプログラミングについて、基礎的な理解を深めるとともに、実践を通じて知識と技術を身につける。
- ②内容 講義：小・中学校におけるプログラミング教育と高等学校プログラミングの要点
演習：初歩から始める Python の実習
- ③研修日時 令和5年8月4日（金）

2 感想など

16名が参加しての研修であった。本校は昨年度よりデジタル探究が実施され、また、情報Ⅰもスタートしたため、プログラミングについて基礎的な知識を身につけたいと思い、参加することにした。今回の研修は、前半に「小・中学校におけるプログラミング教育と高等学校プログラミングの要点」と題した講義、後半に「初歩から始める Python 実習」と題した技術演習を行った。

講義では、AI や機械学習の例を通して正しく使用することが、重要であることを再確認できた。また普及が進んだことで、授業でも情報活用能力を養う必要があり、探究と授業がもっとつながるような教育活動を考えていかなければいけないと感じた。

演習では、Python を用いて初歩的なプログラミングを行った。最も苦戦したところは、入力した内容を文字として表すのか、数字として表すのかを使い分けなければならないことである。また、それにより生じたエラーを一つずつ確認しなければならず根気のいる作業であった。一方で、プログラムさえ組めればボタン一つでグラフの作成や複雑な計算も即座にできることには感心した。うまく使いこなすことで、例えば、授業で生徒ひとり一人の実験データをクラスや学年で集計しそれをグラフに表すといった作業も簡単に行うことができる。しかしながら、前述したようにエラーに対しては「根気」が必要であり、「どうしてそうなるのか」を突き詰めていかなければならない。常に前向きにひとつひとつ突き詰めて疑問を紐解いていく作業もまたプログラミングの魅力であると感じた。

講義の中で、情報Ⅰの共通テストの試行問題に取り組んだ。問題には演習で行ったプログラミングの内容も含まれており、情報Ⅰの授業の重要性を感じることができた。本校は進学校であり情報Ⅰの教科の共通テストに向けた指導を考えていかなければいけないと強く感じた。